

教育研究業績書

2024 年 9 月 19 日

氏名 三村真弓

著書、学術論文等の名称	単著 共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
特別支援学校における「誰にでもできる音楽づくり」の特徴と役割－東京都立葛飾特別支援学校(知的障害)高等部の山本恵美教諭の取り組みを中心に－	単著	2023年11月	『音楽の授業づくりジャーナル』No.9 新しい音楽教育を考える会	本研究では、特別支援学校高等部2年生を対象とした山本恵美教諭の授業分析を通して、特別支援学校における「誰にでもできる音楽づくり」の特徴と役割を明らかにすることを目的とした。「誰にでもできる音楽づくり」には求められる正解がなく、すべてが認められることによって、生徒は自信が持てるようになり、自己肯定感や自己決定感が生じる。また自由に発想したり表現ができるようになることによって、積極性、主体性、自主性が育まれる。音や音楽をとおした様々な他者との対話が生じることによって、他者の音楽表現を受け入れるようになり、アレンジして自分なりの音楽表現を創り上げることによって、他者受容感、自己決定感が生まれる。流れる音楽に合わせて、即興表現を行うことによって音楽との対話が生じ、音楽の楽しさを知り、音楽的感覚の成長、即興生、創造性が生まれるのである。本研究によって、特別支援学校における「誰にでもできる音楽づくり」がSDGsの目指す「全ての人が能力を伸ばし発揮でき、誰ひとり取り残されことなく生きがいを感じることでできる包摂的な社会を目指す」の目標に到達できたことが明らかとなった。(pp.41-60)
新領域による教科横断的な資質・能力の育成と各教科との関連性	単著	2024年1月	『学校教育』No.1271 広島大学附属小学校学校教育研究会	本研究では、研究開発指定校の香川大学教育学部附属高松小学校と広島大学附属三原学校園を研究対象とし、教科横断的な資質・能力育成と各教科をどのように関連付けているのかを明らかにすることを目的とした。新領域と各教科は、教科横断的な資質・能力育成の同じ目的を最初から一緒に目指すよりも、それぞれの目的を達成することによって、双方の目的にも貢献でき、最終的には教科横断的な資質・能力の育成に到達することになることが明らかとなった。(pp.26-31)
学校教育における音楽科の役割と意義 その3－ペントニックが果たす役割の再考をとおして－	共著	2024年3月	『音楽教育学』第53-2号 日本音楽教育学会	本共同企画では、ペントニックが学校音楽教育で果たしてきた役割を再考しつつ、これからの意義を展望した。三村は、「ふしづくりの教育」に着目して、日本のペントニックが果たす役割と意義を明らかにすることを目的とした。日本のペントニックは、日本語の言葉に適応しているので、すぐに即興することができる。個人として即興的に音楽をつくり、他者との模倣唱奏や応答唱奏を行い、協働してさらに良い音楽がつかれる。即興の音楽づくりをしながら徐々に身につけた音楽的感覚や知識・技能、多くの音楽づくり経験を通して身体に保存された音楽的語彙は、さらなる音楽づくりに貢献し、創造性が育まれることが明らかとなった。(pp.90-91)
よこはまりズムあそびの実践の特徴－石井千枝子保育者所属のX保育園に着目して－	単著	2024年3月	『研究紀要』XLIV エリザベト音楽大学	本研究では、よこはまりズム研修会で中心となって指導している石井千枝子保育者が所属するX保育園における実際のよこはまりズムあそびの活動の中での子どもの様子、保育者の支援の仕方、課題のある子どもの変化等を分析することによって、よこはまりズムあそびの実践の特徴、及び子どもの成長に果たす役割等を明らかにすることを目的とした。保育者自身が実際に行うリズムあそびは、ルールをきちんと守ってやっているリズム運動で、子どもたちの良いモデルとなっており、子どもたちに指示したり指導することはない。個々の子どもの様子、状況、課題に合わせて個別対応をし、暖かく見守りながら必ず褒めることによって、子どもの自己肯定感や自己決定感が育まれる。またリズムあそびをペアやグループや集団全体で行うことによって他者受容感も育つ。よこはまりズムあそびは、身体の発達に貢献するだけでなく、人間としての成長にも役立っていることが明らかとなった。(pp.63-76)
「よこはまりズムあそび」の実践の特徴－K保育園に着目して－	単著	2024年3月	『教育学研究紀要』第69巻 中国四国教育学会	本研究では、K保育園でのI保育者のよこはまりズムあそびの実践の特徴を明らかにすることを目的とした。I保育者は、よこはまりズム研修会で学んだよこはまりズムあそびが子どもの心身の発達を促すのにどのような役割を果たすのかを理論的によく理解し、どのように身体を動かしたらよいのかを実体験をもとに体得した上で、それぞれの年齢の子どもたちの様子や課題に応じて、とにかく楽しく主体的に活動できるようにすること、他者との繋がりでいろいろなことを体験し、それが活動の質の向上に反映することを目指している。保育者が子ども1人ひとりと密接な関係を保ち、それぞれの個性、活動の良いところを認め褒めることによって、子どもたちの自己存在感・自己肯定感が生じている。また、リズムあそびの活動を通して他者との繋がりが深くなり、他者受容感が育っていることが明らかとなった。(pp.467-472)

「ふしづくり一本道」におけるペンタトニックの特徴と役割	単著	2024年5月	『音楽の授業づくりジャーナル』No.10 新しい音楽教育を考える会	本研究では、岐阜県古川小学校の「ふしづくりの教育」に着目し、「ふしづくり一本道」カリキュラムにおけるペンタトニックの特徴と役割を明らかにすることを目的とした。日本のペンタトニックは、日本語のことばに適応していることで、すぐに即興することができる。「ふしづくり一本道」カリキュラム初期の日本のペンタトニックによる即興的な音楽あそびは、後半の創作活動の基礎的な役割を果たしていることがわかった。即興的につくった音楽は、リズムや旋律の音楽的感覚を育て、読譜・記譜の知識・技能も身につけさせている。個人として即興的に音楽をつくり、他者との模倣唱奏や応答唱奏を行い、協働してさらに良い音楽がつかれる。「ふしづくりの教育」では、音楽の知識・技能等に関して、教師の一方的な指導をすることはなく、子どもの自由な表現や、感覚的な表現を重視しており、創造性を育てるために「自由に考える」ことを重視しているが、その根底に必要なものとしてペンタトニックによる音楽あそびが存在するのである。ペンタトニックによる音楽あそびは、子どもにとって楽しい主体的・自主的な活動であるが、音楽教育の発展に大きく貢献するものであることが明らかとなった。(pp.62-71)
(学会発表)				
日本のペンタトニックが果たす役割と意義ー岐阜県古川小学校の「ふしづくり一本道」に着目して	単	2023年10月	日本音楽教育学会第54回弘前大学大会	共同企画「学校教育における音楽科の役割と意義 その3ーペンタトニックが果たす役割の再考をとおしてー」において、三村は日本のペンタトニックに着目し、岐阜県古川小学校の「ふしづくりの教育」の「ふしづくり一本道」カリキュラムの初期である第1・第2段階のステップ1～14までの日本のペンタトニックによる音楽あそびの分析を行い、いくつかの実践例を示しながら、その特徴と役割を明らかにした。
よこはまりズムあそびの実践の特徴ーK保育園に着目してー	単	#####	中国四国教育学会第75回香川大学大会	本発表では、よこはまりズム研修会で学んだ保育者たちが実際の園でどのような実践を行っているのかを明らかにするべく、以前に代表としてよこはまりズム研修会を開催していた O 園長が所属する K 保育園にて、特徴のあるリズムあそびを行っている I 保育者の実践に着目した。O 園長と I 保育者へのインタビュー調査と、I 保育者のよこはまりズムあそびの実際の映像の分析から、K 保育園におけるよこはまりズムあそびの実践の特徴を明らかにした。
(その他:講座)				
教育における音楽の役割と意義ー岐阜県古川小学校の「ふしづくりの教育」の特徴と意義ー	単	2023年7月	中高大連携公開講座	本講座では、教育界において音楽が果たす役割と意義に関して、事例をもとに思考・判断してもらうために、岐阜県古川小学校の「ふしづくりの教育」に着目した。まず音楽科固有の資質・能力とは何かをまず理解してもらう。そして、古川小学校の「ふしづくりの教育」の概要と、学校経営者である中家一郎校長の教育観、音楽主任である山崎俊宏教諭の音楽教育観を説明し、実際の映像を公開しながら、創造性の育成に必要な条件、音楽科授業の構成と内容、主体的な学習活動と子どもの音楽的才能等を解説する。最後に、古川小学校の音楽科授業の特徴と、「ふしづくりの教育」の音楽教育としての意義及び人間教育としての意義を明らかにし、質の高い音楽科教育に必要な条件を提示した。